



世蝶

Aブロック全作品と講評

www.columnland.net

美しく

艶やかに舞う

晩期大成とは

かのごときなり

だがしかし

儚き命ゆえに

終わりは誰にもわからない

花と蝶と少女

私、黒崎揚羽は幼馴染の御苑華に恋し

くろさきあげは

みそのはな

ている。性別なんて関係ない。好きなものは好きなのだ。でも、彼女にこの気持ちを告げる気はない。どうせ気持ち悪がられるのが関の山。告白して嫌われたらそれこそ立ち直れない。それなら、この気持ちを隠してでも、ずっと一緒にいよう。そう心に決めていた。

私は、花に恋する蝶なのだと思う。花に想いを寄せる蝶は気を引こうと花の周囲を舞う。それでも花と結ばれることは決してない。そしていつか飛び疲れて地に落ちてしまう。私の恋もいつかそんな風に風化してしまうのかもしれない。

夏休みを目前に控えた七月初旬、私と華はいつものように一緒に下校していた。家のそばの河原に差し掛かった頃、華が不意に足を止めた。

「どうしたの、華？」

「うん、ちよつとね。揚羽に話しておきたいことがあるの」

「改まって何よ」

「実は夏休みに引越すことになって」

「えっ。そんなに急に」

「うん。お父さんの転勤が急に決まって、家族でついていくことになったの」

「そうなんだ、それじゃ仕方ないね」

私は表向き、平静を保っていたが、心の中は穏やかじゃなかった。華と別れることなど今まで考えたこともなかった。「それで、あのね。会えなくなる前に揚羽に言いたいことがあって」

華は顔を赤くして俯いた。

「あのね……私、ずっと前から揚羽のことが好きだったの。友達とかそういう好きじゃなくて」

「えっ」

「ごめんね、気持ち悪いこと言つて。でも、私の本当の気持ち、揚羽に伝えておきたかったの。じゃ、じゃあね」

そういつて華は帰ろうとする。それを私は手を取って引き留めた。

「華、待つてよ。わ、私も華が好き」

「えっ」

華が耳を疑うかのように振り返る。

「私も華のこと、ひとりの女の子としてずっと好きだった」

「そんな、本当？」

「うん。大好きだよ、華」

それを聞いた華は突然、泣き出してしまった。

「私っ、本当にうれしくて……」

「もう、泣かないでよ。私は笑顔の華が好きなんだから」

「うん、うん……」

そのとき、夕暮れの河原に一陣の風が吹き抜け、二匹の蝶が空を舞った。

二月九日 月曜日

きょうはかぜをひいてしまったので、学校をおやすみしました。

あさはおふとんの中でずっとねました。おひるこはんのあともねようとあもったけどせんせんねおむくなりませんでした。そこで、まごのそこの木を見ていました。

そとをはかせがすくて、はっぱがどんどんとんでいきました。ほくは「このまえおかあさんと見たテレビをおもいだしました。そのテレビでははわるいびょうきにかかった人が「あの木からさいごの「まいのはっぱがさんでいったらじぶんはたすからない」といっていました。」

ほくは、ほくもあの木からはっぱがせんぶなくなったらほくはたすからないのだとおもいました。だからはっぱがなくならないようにがんばってとおうえんしました。でも、はっぱはどんどんへていきました。

さいごの「まいがとんでいきました。ほくはかなしくなっていてしまいました。おかあさんがやってきて「どうしたの?」とまいてきたので、ほくは木をゆびさしました。

すると木に白いはっぱが「まいくっついていました。ほくはおかしいなあもってよく見てみました。」

はっぱだとおもったのは白いちょうちやでした。おかあさんが「あら、ふゆにめずらしいわね」といいました。ほくはちょうちやさんがほくへにげんきになってほしくてきてくれたんだとおもいました。

すけけけけ、あーかがやう。

道化師

A-4

僕は一人ぼっちの道化師。

僕の仕事は皆を笑わせること。

僕のパパが死んじゃっても
僕のママが僕の知らない誰かと
遠くに行っちゃっても
踊子が猛獣使いと仲良くしても

僕は今日も皆を笑わせる

白の白粉で顔を隠し
赤い絵の具で心を隠し
黄色い衣装で僕を隠し

僕の役目はこの星に笑顔を運ぶこと。

僕はなんのために生まれたのだろう。
なんて、考えたこともない。

僕が僕である証はただ一つ。

パパからもらった
赤い蝶ネクタイ。

君だけが本当の僕を知ってるね。
ねえ、僕もいつかは
パパみたいになれるかな。

気に入ったものをこの手に収めておきたい、と考えるのは人の性だと思うが、それがたとえ自らと同じ生き物でも、と考えるのは幼少時ならではの無邪気な残酷性にあるのだろうか。幼い頃の私もご多分にもれずそういうった感情を持ち、一匹の蝶を捕らえたことがある。その頃ちようになかのテレビ番組でも見たのだろう、美しく飾られた昆虫標本の片隅にそっと存在していたモンシロチョウの標本にひどく心奪われていた私は夕方遅くまで勝手知ったる近所を散策し、時間切れで仕方なく妥協したモンキチョウを片手に家路を急いだ記憶が残っている。妥協したとはいえ、美しい発色をした手元の黄色い羽は十分魅力的であり、それが部屋の片隅に整然と飾られた想像はただでさえ楽しみではやる私の足をより軽くしたものだ。私は満面の笑みで勢いよく家の扉を開けた。

覚えているのはそこまでである。

次の記憶は泣きわめく自分の

前に置かれている、直視するのとはばかられるような姿をしたモンキチョウの哀れな姿が箱に収められているような光景である。おそらくは素人知識で行った標本作りがその無知さ加減から失敗してしまったのだろうが、今から思い出しても胸の痛む光景である。

小さくても自分と同じ命が宿っているのだ、と痛烈に感じさせるその惨状を思い出すたび、私は認識をより強くするのだ。自らの力の及ばぬようなところまで手を出してはいけないのだと。それが取り返しのつかないような悲劇を巻き起こすこともあるのだということを。

「……そういう訳で、私は明日のマラソン大会を休みたいと思います。」

「お前が明日のマラソン大会に出たからといってどんな惨状が起こりえるというんだ？ 却下だ。」

蝶々の思い出

貴方は蝶で

私は花

どこからともなく

やって来て

私の蜜を

吸いつくす

おなかを満たすと

飛んでいく

貴方は蝶で

私は花

貴方無しには

生きられない

ふと数年ぶりに鍵付きの引き出しをひらいてみると、そこに懐かしいものを見つけた。埃かぶつて煤けた色の蝶ネクタイ。…思えばこれが私の原点かもしれない。

今の道を志した時、ずっと反対していた母がくれたこの蝶ネクタイ。真つ黄色でちようちよのように見えるそれを母がくれた意味、今ならすこしわかる気がする。

あの頃の私は、さながら空をめぐして必死で羽ばたく羽化したての蝶のようにもがき苦しんでいた。大きな希望と不安を抱えて夢中で翅を広げていた。…あの頃の私が今の私を見たらどう思うだろうか？あの日手にした翅を、私は今も、しっかり広げられるのだろうか？

そうだ、今日は久しぶりにこれをつけてみよう。時代遅れだと隅に追いやってしまった、私のはじめての翅を。きつとまだ夢のような場所までは飛べないけど、あの頃からは想像できないくらいの大舞台で、こいつを立派に羽ばたかせてやろう。

そんな私を見て、母はほほえんでくれるだろうか。立派な翅も、すばらしい舞台も、全ては母を喜ばせたがために追い求めてきたものかもしれない。ネクタイを結んだらなんとなくそんなことを考えてしまった。

それに最近出っ歯しかフイーチャーされないからな…。実はそこ責められるの意外と傷つくんだよね…。そろそろ他のとこに目をそらしたいんだよね…。まあ無理か。さて、そろそろ出番かな。

「あれ、さんまさん今日は珍しい格好してますね？」

（波乱万丈伝）

の嬉るせ
 の。し。の。て。の。
 い。パ。と。
 な。パ。目。を。来
 ん。に。を。じ。て。い
 か。ね。キ。つ。私。い。ん
 私。だ。う。と。た。男。だ。事
 ま。っ。キ。見。ち。の。が。あ
 で。て。う。て。の。子。か。あ。る。そ
 さ。る。こ。が。わ。つ。出。の。動。葉。そ
 た。来。後。で。物。を。の。そ。の。失。と
 も。性。っ。き
 の。そ。で。た。二。二。ね
 そ。の。子。れ。あ。る。人。人。な。の
 だ。の。は。と。か。る。生。は。と。そ。殺。話。話
 っ。こ。初。男。話。ら。死。言。は。泣。な。れ。な。し。話。れ。ま。て
 る。ご。の。そ。の。そ。す。か。い。話。ち。つ。て。が。し。し。キ。く
 な。け。く。男。針。の。子。の。よ。な。ち。を。や。た。い。う。か。い。し。れ
 い。ど。嬉。の。で。時。の。後。う。？。や。し。つ。ん。く。ま。つ。な。イ。た。私
 は。か。し。子。刺。も。に。ま。っ。て。た。だ。う。く。た。だ。ん。の
 な。こ。い。の。さ。気。の。私。な。た。て。た。ん。け。ち。で。だ。ね。だ。こ
 こ。ん。笑。れ。づ。に。た。つ。そ。ら。だ。ど。に。き。で。っ。と。そ
 お。の。つ。な。悔。顔。て。い。な。ち。た。よ。な。も。て。っ。肌。を。の。で
 じ。し。あ。て。人。い。を。悔。た。つ。は。み。両。か。ね。て。が。褒。子。ね
 や。ま。た。生。は。見。し。よ。た。ん。親。っ。す。白。め。は！
 !。い。り。今。も。少。て。か。ん。や。た。そ。ご。う。く。て
 で。日。悪。し。た。つ。私。兄。ん。の。い。ら
 く。残。ら。た。は。弟。だ。後
 す。け。最
 ど

恩返し

「しかし、おまえも義理がたい奴だな。以前少し世話になったからといってわざわざ地球まで行って恩返しをすることないだろう。」

「俺はヒトという生物にお礼をしたいのだが、どんな格好だったのか忘れてしまったし名前も知らない。まあ、こういうものは気持ちだからな、ヒトならば誰でもいい。ここの生物は俺たちP星人のような、何にでも姿を変える能力は持っていないようだから、きつと感謝されるだろう。」

「おつ。あそこがこの星の住人らしいのがいる。あいつにしようぜ。」

「そうだな。——ちよつといいか？ 私たちはP星からやってきた。私はこの星の生物に恩がある。そこでお礼にあなたのなりたいたいものにしてあげようと思う。何になりたいか？」

「そういうことなら私を美しいチヨウチヨにしてください。あの綺麗な羽で空を飛びまわりたいのです。」

「よし、チヨウチヨとやらにしてやろう。ちよつと頭を出せ。」

彼はその生物の頭に触手をのせた。その瞬間、あたりがパツと光ったかと思うと、そこには、一頭の綺麗なアゲハ蝶がいた。アゲハ蝶になったその生物は彼らに感謝し飛び立っていった。

「いやー、感謝されるっていいもんだな。ん？ どうしたんだ？」

「おい、今の奴はヒトではなく、アリという生物だったらしいぞ。どうする？」

「何？ そうだったのか。それならもう一度やるか。おつ、あいつはどうだ？ どうも考え込んでいるように見えるのだが、あれはヒトか？ 今度はきちんと調べてくれ。」

「ちよつと待て。今調べる……。どうやら今度はヒトのようだ。」

「そうか。じゃあ行くか。——おい。」

「うわつ、何なんだおまえたちは——」

「私たちはP星の者だ。この星のヒトという生物に以前世話になり、その恩返しをするため、地球にやってきた。あなたのなりたいたいものは何だ？ 一つだけかなえてあげよう。」

「本当か？ にわかには信じられる話ではないが……。ならば私を町長にしてくれ。今回の選挙は何としても勝つてあいつを蹴落としてやりたいんだ。」

「チヨウチヨ？」

（この星の生物は皆チヨウチヨになりたがるのだな。）

「よし、いいだろう」

そして、彼は男の頭の上にその触手をのせた。

ヘラクレス・アゲハ蝶

「兄ちゃん、しっかり探してよ。」

そう言うのと弟は公園中を探し回っている。遠くに離れていく弟の姿を見ながら、俺はどうしてこ
うなつたかを考えていた…

「ヘラクレスアゲハ蝶がみたい」

近所の病院で入院している妹は病室で突如口を開けた。おそらく病室にあるTVでアニメかなにかを見ていたんだろう、いるはずがない生き物を妹は見たいと言いつ出したのだ。入院したと親から聞いて心配していたが、これを聞いて俺は心配でたまっていたストレスを一気に吐き出すかのよう
うに大きいため息をついた。だが、幼い弟は安心するどころか、まるで彫刻刀で彫られたかのよう
な深いしわのある顔をしていた。どうやら弟にはその言葉が妹の、弟にとっては1つ年上の姉の、死
ぬ前のお願いのように聞こえたようだった。

そして俺たちはいるはずもない蝶を探すことになったのである。必死で探す弟を見て、俺は再び
ため息をついた。1時間も経つと弟の目から涙が見え始める。見かねた俺は1つの提案を弟に出し
た。

「折り紙で作ろうか。」

次の日、弟と一緒にまた病院に行った。弟の手にはいかにも不格好で、カラフルな蝶の姿があつ
た。弟はそれをゆつくりと妹に差し出した。妹は一瞬戸惑った顔をしたが、事の次第を察すると
満面の笑みを浮かべた。そして、すぐさま腹を抱えて笑い始めた。

「馬鹿ねえ、そんな蝶いるわけないじゃない。」

この言葉には弟だけでなく俺も茫然とした。どうやら妹は俺達をからかっていたらしい。弟は騙
されたことに気づくとムスツとしてしまったが、俺はついつい笑ってしまった…

家に帰ってすぐに電話がなった。俺は慌てて靴を脱いで受話器を取った。

「先ほど、妹さんが亡くなりました。」

.....

後から聞いた話によると、妹はずっと危ない状態だったらしい。そう…

騙されたのは弟ではなく俺だった…

妹はつらいのを耐えて、俺の不安を取り除いてくれたのだ

俺たちが妹に渡したヘラクレスアゲハ…

それは妹からの最後のプレゼント

白い妖精

ふと目の前に蝶が舞う

こんな夜中に見れるなんて

都会を離れて旅行したかいがあつた

白い羽がひらひらと宙を踊る

私はその白い妖精に目を奪われる

すると

蝶は私の手にとまった

その羽を広げて

口数少ない夫が喋った

「ああそれは蛾だね」

人間界には「ちようちよ、ちようちよ、菜の葉にとまれ！」とはじまる童謡がある。これによれば蝶というものは、菜の葉に飽きたら桜の花にとまり、飽きたら再びひらひらと遊び、また遊んではとまる、ということを繰り返すらしい。▼おそらくこの文は、蝶という生物の生態を巧みに表現した秀麗な詩に違いない。しかし皮肉にもこの歌は、我々の眼下で横暴の限りをつくす人類そのものを示しているかのように思えて仕方がない。▼我々は人類を、昔から度々救ってきた。隕石の衝突から人類の祖先を守り抜き、火や化石燃料などの道具を与え、住みやすい気候までも提供した。今思えば、我々は彼らにそこまでしてやる義理などなかったのである。▼彼らは我々の期待を裏切った。地上の支配者としてその生態系の頂点に立っていながら、その他の生物を守ろうとする動きはいまだ少なく、弾圧をやめようとしなない。そろそろ我々も重い腰を上げる時が来たのではないだろうか。▼すでに今年も天界大会議において、海洋神ポセイドンによるエルニーニョ現象の誘発、天空神ウラノスによるオゾンホールの作成が決定した。この動きに同調し、他の神々も人類に対する自主制裁を検討している。▼蝶よ花よと育ててきたこれまでの八五〇〇万年、いったいどこで我々は失敗したのだろう。今の地球の惨状は、人類を自由放任主義のもとで育ててきた我々の責任も否めない。今一度対人政策を抜本的に見直し、この星を救うべく速やかに動くことが、天界政府には求められている。

神声人語

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	美しく	3 pt 大器晩成！ やっちゃったのか、はたまた造語か。 晩期大成——言い得て妙かも。大器じゃなくっても、 みんな大成するのは晩期だよね、と。 行書体で蝶の一生を格調高く切り取った今週の表紙で した。 イチオシフレーズ：「晩期大成」× 2	8 位	0 sp
A02	花と蝶と少女	2 pt 甘〜〜い！ そして二人の可憐な少女はこの瞬間に蝶 となり、かるやかに踊った挙げ句に飛び疲れて地に落 ちてしまうのでしょうか。 これだけ甘い展開のあと、作者さんがどんな運命を二 人に用意されたのかが気になってみたり。 特別賞：こっばずかしいで賞（はずかしくて読めな い） イチオシフレーズ：「華、待ってよ。わ、私も華が好 き。」	9 位	1 sp
A03	二月九日月よう 日	13 pt 子どもの頃って小さなことでも人生の一大事として真 剣にかかえこみますよね。 「最後の一葉」を子ども視線にして、白い蝶を絡ませ ることで、そんな回顧の思いを誘います。 白い蝶にふさわしくシルバー・メダルでした、おめで とう!! 特別賞： は が多いで賞（ は が1つ多い）	2 位	1 sp
A04	道化師（ピエ ロ）	0 pt リズムよく歌のように。 情景と心情をコンパクトに伝えつつ、赤い蝶ネクタイ がスポットライトに輝きます。 レイアウト、もっと中央にすると、ピエロのさびしさ がより際立ったでしょうに、もったいない。 A4サイズをカットしてB5にしてるみなさまは、そん な見せ方も工夫してみてください。 イチオシフレーズ：「白い白粉で顔を隠し、赤い絵の 具で心を隠し……」	12 位	0 sp
A05	蝶々の思い出	4 pt 幼い頃の思い出って、こんなふうに切れ切れの断片で すよね。その感じが、とてもよく映し出されていま す。 で、引っ張って引っ張って、まさかのマラソン大会オ チへ。くすりとほほえましく読み終わられます。	6 位	0 sp
	無題（貴方は蝶	4 pt 詩はリズムいのち。 蜜を吸いつくされながらも、貴方なしには生きられな	6 位	0 sp

A06	で私は 花・・・)	い。男と女の、女視点からの暗喩だったでしょうか。 いじらしすぎて、逆に怖いおんなごころ。さらりと切り取っていただきました。 イチオシフレーズ：「貴方は蝶で私は花」
A07	～波乱万丈伝～	1 pt 11 位 0 sp 芸人さんの舞台裏の苦労や思い出に、蝶ネクタイという小道具を使ってフィーチャー。お母さんまで登場して、しみじみといい展開です。 楽屋オチコード違反の危険を冒してまで無理にさんまさんにしなくても、読み手の想像力にゆだねてしまって良かったのでは。
A08	とある蝶の日記	2 pt 9 位 12 sp 今回、標本になって悲しい、という切り口は、たくさんあったのですが、あの子と一緒にうれしいなとポジティブにとらえた視点が、なごみポイントでした。 蝶レイアウトもグッジョブ。そこが大ヒットで、なんとなんと特別賞総なめ、12個もいただけるという、とんでもなく記録的な展開となりました。おめでとう!! 特別賞：レイアウト賞×7（蝶に合わせたレイアウトがキレイ!）レイアウトベスト賞 見にくいで賞（見にくかった。レイアウトはきれい）読みにくいで賞（レイアウトがgood!!）がんばったで賞（形すごい） バタフライ賞（レイアウト頑張った）
A09	恩返し	25 pt 1 位 0 sp わはは、うまいうまい。P 星人ってば、おちゃめすぎ! コントのコミカルさで楽しめました。 いきなりオチに行かずに、アリさんと遊んだ前段が効いてますね。 大ヒットのゴールド・メダル、おめでとう!! これによって、Aブロックの後半戦はネタの嵐となる……のか!?
A10	ヘラクレス・ア ゲハ蝶	13 pt 2 位 0 sp 去りゆく人がこの世に残した最後のプレゼント。それはプレゼントをさせてあげること。 心にしみるコンセプトです。 人は誰かのために何かをすることでしあわせになる。 ちょっとシリアスな状況を設定することで、そんなたいせつなメッセージをお届けいただきました。 フロアの感動をさそってシルバー・メダルです、おめでとう!! イチオシフレーズ：「それは妹からの最後のプレゼント」×2 「バカね、そんな蝶いるわけじゃない」
A11	白い妖精	12 pt 4 位 1 sp まさかの夫さん登場。「羽を広げて」が伏線ですね。 それまでのひらひら気分が吹っ飛びます。 夫さんのグッジョブによって、イチオシフレーズ大賞をさらいました。 しかしねえ……ご婦人が浪漫に浸っているときは、ぶちこわしてはなりません。「これだから理系の男は……」って言われないように、将来の夫予備軍のかたがたはご用心。 特別賞：夫もっとしゃべりま賞（感動をかえせっ!）

		イチオシフレーズ：「ああそれは蛾だね」×6 「口数少ない夫が喋った」
A12	神声人語	12 pt4 位0 sp まさに天の声。しっかり新聞コラムに仕立てて、軽やかに童謡ネタから入ってポセイドンまで召還しての政策提言。 ていねいに手をかけた作りは、作者さんの誠実なお仕事ぶりとともに、8500万年間もずーっと自由放任主義でやってきた人類への強いメッセージのあらわれかなと読みました。 ベスト3まで、あと1ポイント。がんばれ正統派。

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	ちょうちょ	5 pt8 位4 sp 蝶の一生をレイアウトとフレーズできれいに造型。絵本気分漂う今週の表紙に、レイアウトを評価した特別賞をたくさんいただきました。 特別賞：SANAGI賞（レイアウトが美しい） おいしい賞 レイアウト賞（レイアウトがんばってた） デザイン賞（キレイにさなぎのレイアウトができていて、内容と一致していたから）		
B02	Con onor muore・・・ （蝶々夫人）	2 pt9 位3 sp あれれ？ T Aさん対応可能言語のなかに、イタリア語はなかったはずだけど。 だいじょうぶ、グーグルセンセに訊きました。「名誉のために生けることかなわざりし時は、名誉のために死なん（Con onor muore chi non puo serbar vita con onore.）」 蝶々夫人について手際よく紹介しつつ、海外における日本文化の受容のされかたの不正確さ・キツチュさへと自説を展開。ウンチク+メッセージのバランスが絶妙でした。 正統派推進運動、依然展開中。蝶々夫人に続け！ 特別賞：危ないで賞（暴論。日本がアブない!!） 読めないで賞（タイトルの意味を知りたい） 正統派賞（一番正統派だったから） イチオシフレーズ：「Con onor muore・・・」		
B03	夏がくる	12 pt4 位0 sp 日常感あふれる前半の描写が親近感を誘います。何も事件は起こらない。だから、ずっと読み手が作者にシンクロできる。外は夏空。蝶が運んだ小さな小さな応援歌でした。 イチオシフレーズ：「さっきまでのだるさは、いつの間にか消えていた。」		
B04	ふたつの「蝶の死」	9 pt5 位0 sp ごつごつした仕上がりだなと読みました。物語としてきれいに整えるという加工がされていない原石。そのぶん、ざらりとナマの感触で読み手にさしこまれてくる迫力があります。よって実体験かなと推理。 さっさと答えを出して終わりにしたりしない、このスタンス。ぜひ今後とも。		
		0 pt11 位0 sp さなぎからいざ大空へ。羽ばたく瞬間への期待が、「旅		

B05	旅立ちの時	立ち」というキーワードから伝わってきます。 2箇月前にはたしかに自分のなかにあったもの。もう一度呼び戻してみようぜという自分や読み手への呼びかけでもあったのかも。 イチオシフレーズ：「大空に飛び立つこの時を」
B06	ぼくのなつやすみ	0 pt 11 位 1 sp ひなびた田舎の夏休み。ほのぼののフォントに油断していたら、な、な、なんとホラーオチでした。 たしかに蝶がびっしりぎっしりは、いかにも魔性めいた光景ですね。そこをもっとアピールすると良かったか。 特別賞：よく分からないで賞（3日目と4日目に何があった!?)
B07	ちょうちょうはまるで……	6 pt 7 位 5 sp おー、すごいすごい。技巧派ここに極まれり。 でもでも町長さん、ソーブは失脚の危険がありますぜ。マスコミからじょうずに隠れて、ほどほどに。 そのギリギリ狙いのアブなさが印象的だったか最多特別賞ゲットです、おめでとう！ 特別賞：下（しも）賞（上段下段に分ける工夫がよかったから）つややかにかるやかにおどるで賞（ふざけてたから）嘲笑（なんかういている）おかしいで賞（ソーブで子孫は残さないでしょう）アウト賞（放送コードにひっかかっているから） イチオシフレーズ：「ちょうちょうはまる」「ソーブランド」「TO（トップオタ）」
B08	花と蝶	13 pt 3 位 0 sp 絵本のページをめくっていくような展開で、小さなラヴ・ストーリーの始まりと終わり。4行できれいに揃えた言葉えらびのていねいさが光ります。 またいつか。ラストにしんみり。 メルヘンタッチがここちよく響いて、激戦のなかブロンズ・メダルの評価をいただきました。おめでとう！
B09	蝶のように	1 pt 10 位 2 sp さらりとつぶやき。 窓際で頬杖ついて外を見ている少年、という絵が浮かびました。 特別賞：頑張った賞（頑張った気持ちが伝わった）将来の成長に期待するで賞（題目いらない）
B10	憧れと現実の狭間	18 pt 1 位 0 sp これは新視点。幼虫の視線から成虫を見ると。 しっかり成り切ったの描写なので、映像や気持ちがするする見えてきます。茶色いごつごつとか、うまいなあ。 そしてラストがニートか、やるなあ。 ヤンデレ姫の華麗なる変身、みごとに首位に輝きました。あわせイチオシフレーズ大賞もゲットです。おめでとう!! イチオシフレーズ：「もう少しだけニート（幼虫）でいよう」×7
B11	目撃者	9 pt 5 位 0 sp 蝶に導かれて不意に蘇ってくる過去の暗部。自然な運びで重たいドラマをずしりと提供。ストーリーテリングの巧みさが光ります。 どれ一つとして無駄な描写がなく、つよいインパクトで細部まで光ります。なかなか、ここまでしっかり書くことはむずかしいもの。みごとな筆力でした。
		15 pt 2 位 0 sp

B12

日本人の皆さま

その「超」かいっっ！
さんざん蝶と戯れてきただけに、そんなハズシっぷりが
とても新鮮な今週の読み納めでした。ていねいな言葉遣
いが好印象です。
「超うれしいです」作者コメントまで作品と一体化して
ましたね。おめでとうシルバー・メダル!!
イチオシフレーズ：「超ムカツク」「超かっこいい」